

あかね雲

2019.3.20

No.164

CONTENTS

- ◆島根県看護協会の動き……………P1
- ◆理事会報告……………P1
- ◆看護師の特定行為研修シンポジウム開催…P1
- ◆職能委員会活動……………P2
- ◆専門看護師紹介……………P2
- ◆支部活動……………P3
- ◆委員会活動……………P4
- ◆平成30年度
認定看護管理者教育運営委員会活動報告
「セカンドレベル」を受講して…P4
- ◆トピックス……………P5.P6
- ◆ナースセンターだより……P7.8
- ◆ホッとひといき……………P9

雲南市 / 木次の桜並木



次世代を担う看護職の人材育成に向けた新たなStageへ

島根県立大学看護栄養学部長 梶谷 みゆき


2012年(平成24年)4月、島根県立大学看護学部(2018年度より看護栄養学部)は4年制の大学としてスタートしました。2018年度には健康栄養学科を開設し、専門職間の連携力を基礎教育の段階から育成することをめざして、両学科の学生が履修可能な「連携科目」を立てています。一方、看護学科の完成年度にあわせ2016年度には看護学研究科修士課程を設置し、さらに2019年度には博士後期課程の教育をスタートするこ

とになりました。研究科では島根の地域医療を牽引できる研究力を持った看護職育成をめざしています。2020年度からは現存の別科助産学専攻と並行して、博士前期課程での助産師資格取得のコースも開始する計画で申請準備中です。県立大学は、認定看護師教育課程等も含め、看護職の多様なキャリア形成と学修ニーズに応えていきたいと考えています。現場の様々な課題に自律的に実践を重ねることで、卒業生・修了生たちが県民や社会の負託に応えてくれるであろうと期待しています。



公益社団法人 島根県看護協会

看護協会の動き(2018年12月、2019年1月)

項目	月 日(曜)	実 施 事 項	出 席 者	場 所
看護日 協会本 会	12月19日(水)	第4回認定看護師制度委員会	秦会長	JNAホール
	1月30日(水)	第5回認定看護師制度委員会	秦会長	JNAホール
島根県 看護協会	12月 4日(火)	協会事業についての協議	秦会長、石井理事	雲南市立病院
	12月 4日(火)	訪問看護ステーションのICT化協議	秦会長、徳若理事、植田局長、県医療政策課	
	12月 4日(火)	県議会看議連へ要望	秦会長、徳若理事、植田局長	議事堂別館
	12月 4日(火)	助産師出向事業調整会議	秦会長、徳若理事、石井理事	松江市立病院
	12月 5日(水)	助産師出向事業調整会議	秦会長、徳若理事、石井理事	県立中央病院
	12月 5日(水)	移動ナースバンク松江	渡部、金津	くにびきメッセ
	12月 5日(水)	高校生のための進学ガイダンス	栗谷	松江東高等学校
	12月 7日(金)	公益法人立入検査	秦会長他	看護研修センター
	1月15日(火)	出雲地区両親学級検討会	徳若理事、石井理事	出雲市役所
	1月16日(水)	移動ナースバンク松江	渡部、金津	ハローワーク松江
	1月21日(月)	松江地区両親学級話し合い	八澤理事、秋月委員	松江市保健福祉総合センター
	1月27日(日)	島根Uターンフェア(広島会場)	春日参与	基町クレド
	1月29日(火)	常務理事会	秦会長他	看護研修センター
島根県	12月18日(火)	しまね働く女性きらめき応援会議	秦会長	ホテル白鳥
	12月18日(火)	島根県周産期医療協議会	八澤理事	出雲合庁
	12月20日(木)	訪問看護支援ワーキンググループ	安田アドバイザー	島根県庁
	12月20日(木)	島根県地域医療支援会議	小森副会長	松江エクセルホテル東急
	12月25日(火)	島根県福祉・介護人材確保対策ネットワーク会議	小森副会長	島根県庁

理事会報告 ◆第7回理事会 2019年2月26日(火)9:30~15:30

【協議事項】

- 1-1 2018年度重点政策・重点事業(案)
- 2-1 2018年度事業報告:職能等委員会、支部(案)
- 2-2 2018年度ナースセンター事業報告(案)
- 2-3 2019年度島根県看護協会通常総会(案)
- 2-4 2019年度「看護の日」記念のつどい(案)
- 2-5 2019年度における研修分類の変更(案)
- 2-6 2019年度教育計画(案)
- 2-7 2019年度認定看護管理者教育課程について(案)

- | | |
|-----------------------------|----|
| 承認 | 承認 |
| 3-1 定款施行細則(特別委員会)の改正(案) | |
| 3-2 2019年度島根県看護協会見込み会員数(案) | |
| 3-3 2019年度島根県看護協会の職員給与改定(案) | |
| 3-4 2019年度協会役員等の各種保険加入(案) | |
| 3-5 委員会等が開催する研修会の受講料(案) | |
| 3-6 島根県看護研修センターの修繕(案) | |
| 4-1 協会創立40周年記念事業委員会(案) | |

【報告事項】

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1-1 日本看護協会第6回理事会報告 | 2-5 助産師出向全国推進会議・総合周産期医療センター看護管理者合同会議 |
| 2-1 両親学級運営についての情報交換会 | |
| 2-2 看護基礎教育についての情報交換会 | 3-1 島根県看護協会のうごき |
| 2-3 協会立訪問看護ステーション居宅介護支援事業所の休止 | 3-2 新会員情報管理体制の状況について |
| 2-4 日本看護協会広報担当役員会議 | |

看護師の特定行為研修シンポジウム開催

看護師の特定行為研修制度は、今後の急性期医療から在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成することを目的としています。島根県においては、平成30年3月現在、修了者は14名とまだ少ない状況にあります。そこで、「指定研修機関や研修修了者の増加に向け、県内における特定行為研修の支援および活動の実際を周知すること」を目的とし、平成31年1月19日(土)にシンポジウムを開催しました。参加者は23名でしたが、病院のみでなく大学教員、老人保健施設等からも参加があり、本研修制度に対する関心の高さがうかがえました。



最初に「島根県における特定行為研修の体制整備等の計画や取り組みについて」島根県健康福祉部医療政策課の坂本課長から情報提供があり、その後、看護管理者と特定行為研修修了者およびNPからそれぞれの立場での活動内容の紹介がありました。

参加者から「施設の事情により効果的な活用方法は様々であると分かった」「特定行為研修修了者の実際の活動状況を知ることができ、今後、自施設の運営の参考になった」「管理者の立場と実際活動をされている看護師の意見であり、とても良い内容であった」等の感想がありました。

島根県看護協会は今後も看護師の特定行為研修制度の普及および促進を目指し事業をおこなっていきます。

職能委員会活動

平成30年度助産師職能委員会活動について

今年度は、「包括的母子保健推進における看護機能の強化」という協会の重点事業のもと「助産師の専門性強化」「両親学級の開催」「助産師出向支援事業」に取り組んでいます。

専門性の強化では「新人助産師集合研修」「キャリアアップ研修」「助産師職能集会」「新生児蘇生法スキルアップ講習会」の研修を企画しました。キャリアアップ研修では、開業助産師であるAya母乳育児相談室の坂本亜也子先生より乳腺炎からみる母乳育児支援について学びました。診療報酬の改定で乳腺炎重症化予防ケア・指導料の施設基準にアドバンス助産師の登録が必要となったこともあり、知識技術の向上を目的とした研修でもありましたが、同時に施設勤務助産師と地域で活動する助産師の助一助連携の重要性も考える機会となりました。

助産師職能集会は周産期領域で課題となり注目されている「産科混合病棟ユニットマネジメント」をテーマに開催し30名の参加がありました。公益社団法人日本看護協会の井本寛子理事より周産期をとりまく実情、助産師の役割、産科混合病棟の課題についてご講演いただき、講演後

助産師職能委員長 八澤 京子

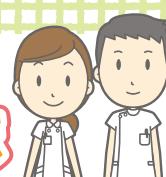
は県内4施設の助産師による産科混合病棟の取り組みについてシンポジウムを行いました。参加者は意見交換を通して他施設の現状を知る機会となったことや、世の中や組織の動きに合わせて母子を守るために自施設のあるべき姿は何かを考えることができた集会となりました。

助産師出向支援事業では、今年度は出向元・出向先となる5施設の調整により順調に実施されています。また、昭和58年から継続している両親学級の開催についても周産期をとりまく環境の変化に伴い見直しを行っています。両親学級の運営も含め、包括的母子保健推進の秘訣は多職能の協働だと考えています。

今後も会員の皆様にご意見をいただきながら多職能と協働し、より専門性が発揮できるような活動を企画していくたいと思っています。



専門看護師紹介 新しく誕生しました



専門看護師への質問

- ①専門看護師を目指した動機
- ②専門看護師としての抱負
- ③休日の過ごし方



島根大学医学部附属病院
がん看護専門看護師

上田 幸奈

- ①看護学生の頃に、がん患者さんとの関わりに心を打たれました。看護師となり、臨床において、大半をがん看護に携わる領域で従事してきた中で、自分の知識と実践能力が不足していることを自覚し、がん看護専門看護師を目指すことを決意しました。
- ②様々な場面において、がん看護を考え、院内外の他職種や、他施設の方と一緒に学んでいける環境等を整え、実践していくたいと思っています。
- ③仕事を忘れ、家族や友人と過ごしてリフレッシュします。



松江赤十字病院
精神看護専門看護師

斎藤 涼子

- ①今までの勤務経験から、患者様やご家族が抱える心の問題に十分な介入ができず悩んでいました。また、職員が健やかに働くよう何か出来ることは無いかと考えていた時に、職場の支援があり専門看護師を目指しました。
- ②精神科や一般科の患者様とご家族が安心して治療が受けられるように、心の問題に対し多職種と連携・協働して支援していくたいと思います。職員の心の相談窓口としても活動しています。
- ③友人とゆっくり過ごしています。



独立行政法人国立病院機構
松江医療センター
老人看護専門看護師

山根 裕子

- ①看護学生時代に老人看護専門看護師の方の講義を受けたことで憧れを抱くようになりました。呼吸器疾患をもつ高齢患者へのケアに悩む中で、より専門的な知識や技術を学び、自身や自施設の高齢者ケアの質を高めていきたいと考え、老人看護専門看護師を目指しました。
- ②高齢者が病気を抱えながらも、最期までその人らしく生き、生き終わるためにお手伝いをしたいと思います。
- ③子どもと一緒に公園めぐりをしています。

支部活動

「地域包括ケアシステムの理解～地域の医療・介護の連携～」 第2回松江支部研修会を開催

松江支部第2回研修会を「地域包括ケアシステムの理解～地域の医療・介護の連携～」というテーマで開催し、参加者102名のもと大盛況のうちに終了しました。地域包括ケアシステムの実際を松江保健所長の立場、社会福祉士の立場、訪問看護ステーションの立場から、3名の講師にそれぞれ講義していただきました。私は、「地域包括ケアの理解として松江圏域における医療・介護の動向」について、村下先生の講義の中で地域包括ケアシステムを分かりやすく言うと「人」と「人」をつなぐ事、「人」と「機関」をつなぐ事と語られたのが印象的でした。疾患を抱える方への継続的な看護、介護を目指し、自施設だけでなく、施設間と地域との連携を密にする事の大切さを考える時間となりました。

参加者からは、「今回の研修で松江圏域の医療・看護の

松江支部長 佐々木 亜弥

現状を知る事が出来た。なかなか松江の現状を知る機会がなく興味をもってきく事が出来た」「訪問看護の現状をあらためて知る事が出来た。」「私は病院勤務しているが、今後、退院時の関わりでは訪問看護等の方とお互いの顔の見える関係での関わりを大切にしたい」と感想をいただきました。

今後も会員の皆さんのお研修に対する思いや要望を聞かせていただきながら、研修を企画し、活発な支部活動に繋がるよう努力していきたいと思います。



テーマ
地域包括ケアシステムの理解
～地域の医療・介護の連携～
村下 伯先生 松江保健所長
小林 裕恵先生 鹿島病院地域医療課長
高橋 京子先生 花みずき
ナースステーション所長

「まちの保健室」事業と支部活動

出雲支部では昨年度まで毎月1回常設型として開催していた「まちの保健室」事業を、今年度よりイベント型をメインとする活動へ移行しました。今まで参加していたJA農業祭、出雲圏域健康長寿しまねのイベントに加え、地域のコミセン祭りに出向いて看護協会のPRと健康測定、健康相談を行っています。常設型よりも多くの様々な地域住民の方とふれあい、健康意識の向上について支援できることに支部役員も今まで以上にやりがいと手ごたえを感じています。

平成30年6月には支部総会に合わせて「断捨離でストレスフリーな暮らし～ごきげんの作り方～」というテーマで

出雲支部役員 池田 公子

チーフ断捨離トレーナーの南前ひとみ氏に講演をしていただき、ものを整理するということは心の整理をすることであると学び、参加者からもとても興味深い内容であったと好評でした。10月には看護活動交流会を行い、地域包括ケアシステムについて島根県立中央病院岩佐佳栄看護師長と萬代由喜子社会福祉士に講演していただき、その後グループワークを通してそれぞれの立場での役割について考える有意義な機会となりました。



第2回研修会「絵手紙作りでリフレッシュ」 第3回研修会「もしもの時の私のこころづくり～ACPを学ぼう～」

益田支部長 山本 ひとみ

益田支部では、10月27日(土)と、2月9日(土)に研修会を開催しました。

第2回研修会では、元中学校美術教師 田中 賢先生を講師に、絵手紙作りに挑戦しました。絵手紙作り初心者が多い中、先生のユーモアあふれるご指導と心温まる励ましのお蔭で、何とか全員が3枚ずつ作品を仕上げることができました。筆をゆっくり走らせながら、(送る)相手を想う心と、そして自分自身を見つめ直す心の余裕を持つことの大切さを実感しました。まさに看護にも通じる心です。

第3回研修会では、安芸市民病院 緩和ケア部長 松浦

将浩先生を講師に、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について学習しました。先生は事例を通して、「人生をどう生きたいのか、最期をどこでどう過ごしたいのか」、一人ひとりが考え、その思いを家族や代理人に伝えておくこと、そして、もしもの時にはその思いを医療者や支援するチームで共有し、尊重していくことが大切だと話されました。改めて、参加者一人ひとりが患者さんや家族に寄り添う姿勢について、考える貴重な機会となりました。



委員会活動

「平成30年度教育事業委員会の活動報告」

教育事業委員会委員長 宇野 福美

教育事業委員会はおもに『ジェネラリストを育成する教育』に関わる研修の企画運営を行っています。今年度は、新人向け研修、県立大学との連携研修、他機関からの委託研修などを含めた16コースを企画・実施しました。

新人向け研修は毎年好評を得ており、来年度も引き続き研修を企画しています。

「感染管理の基礎」「褥瘡ケア」「人工呼吸器管理と看護」「摂食・嚥下障害のある患者の支援」研修は、県内の認定看護師による丁寧な指導・演習が好評で満足度も高くなっています。「地域包括ケアシステム」を推進し実践力の向上を目指し、いずれの研修でも在宅や施設向けの内容を取り入れました。地域で活躍される看護職の方の参加も増えてきました。

「周産期・子育て期の家族支援」は今年度、テーマを新たに実施しました。様々な問題を抱える家族は増えており、ニーズのある研修となりました。

また、受講者から要望のあった「ファシリテーションスキル」「メンタルヘルスサポート」研修を新たに企画実施しました。特に「ファシリテーションスキル」は127%の応募があり、参加者の興味を引き、「今後に活かしたい」「とても勉強になった」など、満足度の高い研修でした。今後、ねらいやテーマを絞り込み、より実践に活かせる研修が実施できるように検討していきます。毎年好評の「リーダーシップトレーニング」が、台風で1日短縮となり残念でしたが災害時の対応を見直す機会となりました。

委員会では研修ごとに報告書をまとめ、受講者の皆さんのお意見を反映しながら研修の企画・運営を行っています。教育計画がお手元に届きましたら、すぐにご覧いただき、是非多くの研修会にご参加ください。



褥瘡ケア研修

平成30年度 認定看護管理者教育運営委員会活動報告

専任教員 田辺 美代子

平成30年度は、認定看護管理者教育課程セカンドレベルが開催されました。受講者29名(定数30名)が、5月から8月の間34日間をともに学び、看護管理者としての自覚や連帯感を深めていきました。受講者の所感を紹介します。

「セカンドレベル」を受講して

平成28年度に「ファーストレベル」を受講して、看護管理の基本的な知識を修得しました。受講後、私自身は、様々な判断の場面で迷いが減った実感がありました。しかし、看護部組織を振り返ってみると、何の変化もないまま1年が過ぎていることに漠然とした危機感を覚え、知識を実践に繋げるために、続けて「セカンドレベル」を受講することにしました。

私は、今年度4月から看護部長になり、看護部の理想像を描いてはいたものの、それを現実にするためのスキルを持ち合わせていませんでした。研修初日の統合演習で、“憧れの看護部像”をとりとめもなく語ったことが思い出さ

西部島根医療福祉センター 鮎脇 美穂子

れます。それからは、一つひとつの講義が大変意義深く貴重な時間であり、夢中で学びました。また、統合演習では、データを用いた現状把握から分析、理論を活用した実践までを、担当講師がマンツーマンで丁寧に導いてください、ビジョンの実現に向けて進み始めることができました。講師の先生方に、感謝申し上げます。

そしてもう一つ、共に学んだ仲間は、すでに私の大きな支えとなっています。刺激し合い、助け合い、楽しく癒し合える仲間と出会えた機会もありました。大切な仲間にも感謝です!!



トピックス 訪問看護ステーション出向研修事業からの

「島根県訪問看護ステーション出向研修事業」の概要について

島根県健康福祉部高齢者福祉課地域包括ケア推進室 吉田 智美

地域包括ケアシステムの構築に向け、病院の在宅療養支援の機能強化や、かかりつけ医とともに在宅医療を支える訪問看護の推進が求められています。

このような中、病院の看護師が一定期間、訪問看護ステーションに出向し、訪問看護の一連の業務を実践することで、看護職の在宅療養支援能力の向上と、地域における訪問看護の担い手育成を図る仕組みとして、本県において今年度より新たに「訪問看護ステーション出向研修事業」を実施しています。

県医師会・看護協会・訪問看護ステーション協会等各関係団体で構成される委員会での検討を経て、昨年10月より県内2か所で試行的に出向研修をスタートさせました。本事業が円滑に進むよう、出向条件の調整、出向に係る費用助成、出向看護師や出向先に対するフォーメンタル等、県としても様々な面で支援を行っています。

先月2月9日には、2か所の成果報告会を開催し、病院や訪問看護ステーション等関係者約100名の参加がありました。

病院・訪問看護ステーション双方にとって大きな成果が得られた今回のモデル事業ですが、今後は当事業の全県的な普及展開を目指して、取組みを進めていきたいと考えています。

出向看護師としての学びと課題

出向看護師 松江市立病院 細田 理恵

島根県訪問看護出向事業に参加し、看護協会訪問看護ステーションやすらぎで3か月研修を行いました。この間、延べ100件余りの訪問看護を経験しました。

私は、急性期領域での勤務経験が長く、急性期看護中心で回復した後のことを考える機会が乏しく、退院支援の難しさを感じていました。そして自宅退院になった患者の在宅での生活状況を知る機会とし、在宅医療や訪問看護について経験したいと考え参加を希望しました。目標は、「自宅へ退院後の生活状況について知ることができる」「訪問看護の実際を学び、入院から患者を生活者として捉え、適切な退院支援を考えることができる」「訪問看護におけるチーム連携について学び、必要なスキルを習得することができる」「学びや経験を当院での在宅療養支援や、退院調整、家族を含む退院指導等に生かすことができる」としました。

実際に訪問看護師として研修する中で、様々な疾患の利用者宅に訪問し、生活状況をみることができました。在宅では自分の関わりへの反応がリアルタイムで返ってきます。それがケアや支援の評価となり、より緊張感をもって関わることができます。

研修後振り返り、これまでの私は自宅退院を希望されても、先のイメージがつかず、難しいと判断しているところもありました。これからは、どうしたら地域で生活していくのか、そのためには、病気の経過過程と入院前の生活環境を合わせて考え、より具体的に退院後の生活の場を想定し、必要な指導や支援はなにか考えていきたいです。

今回研修に参加し、病院と地域間で切れ目ない看護を行うためには、退院前からの関わりが重要であり、そのためには退院前カンファレンスを充実させることが必要だと感じました。この限られた時間の中で、患者が地域で生活していくうえで必要な情報を提供できるよう、事前に本人・家族等サポートする人の情報をまとめ準備が必要です。また、退院後も継続可能な指導を行っていくこと、それをつなげていくことが必要と感じました。

在宅・地域で退院後を支える訪問看護の力を体感し、退院後の患者さんを安心して任せることができる環境があることを知りました。今回学び、感じたことをより多くの病院看護師に伝達し、より充実した退院支援・指導ができるよう、またその支援や指導をつなげていくよう研鑽していくたいと思います。

出向元(病院)としての成果

松江市立病院 副看護局長 赤江 寿美子

今年度、島根県訪問看護ステーションへのモデル出向事業に参加しました。出向実施目的には「在宅医療・訪問看護の実際を学ぶ。そして、看護師の役割や連携を学び、この経験を活かして、退院支援が円滑にできる役割が担える」としました。

出向者的人選は、看護実践のスキルをもち、コミュニケーション能力の高い副看護師長としました。そこに、研修後出向看護での学びを現場で退院支援を行う上で要となる人と期待を込めました。

出向者は、3ヶ月の研修の中でのべ100件の訪問を行い、利用者個々の生活の場で看護を実践しました。訪問看護という在宅の立ち位置から、難しさも経験しました。この経験から、病院では何をすべきかの発信者となるよう私もサポートを行いたいです。

私自身も月1回反省会への参加を通じて、出向者の学びや、成長を感じることができました。そして、今後訪問看護ステーションに新人看護職員が入職した場合、新人教育を当院が一部担うなどの連携についての展望も所長さんと話しました。今回、訪問看護ステーションの方々と顔の見える関係ができたことも、私の成果でした。

これから、退院後患者が、地域で生活するための看護をつなぐために、この研修で学んできたことを周知して、さらに効果的なものにするため取り組んでいきます。

出向先(病院)としての成果

島根県看護協会訪問看護ステーションやすらぎ 所長 角 里美

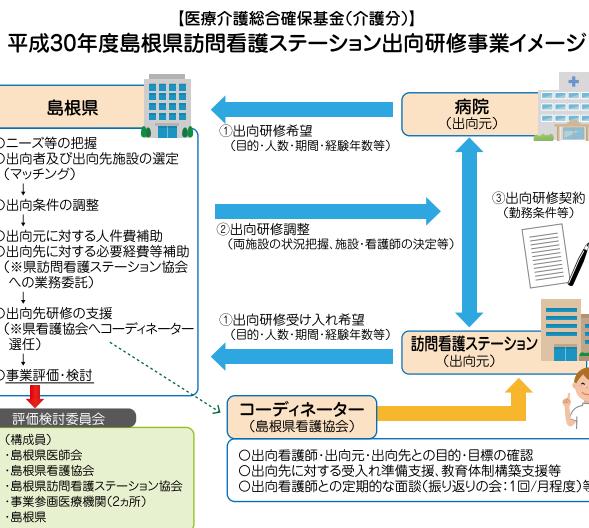
病院との顔が見える連携強化、切れ目がない看護の提供、また訪問看護師人材確保の一助になることを目的に、昨年4月より協議を重ね10月よりスタートした3か月間の訪問看護出向研修事業が終了しました。

最新の医療情報や看護ケアを専門性の高い看護師に直に学んだり訪問看護師の一員としてお互いの情報交換ができたことは、他スタッフへの教育的効果も大きく双方で勉強になりました。出向者はすぐにスタッフとも溶け込むことができ、3か月間で約100件の単独訪問をするなど早期から事業所の戦力として活動することができました。

入院時から生活者の一人としてとらえることの大切さ、本人・家族の希望する在宅療養が叶うよう、各関係部門と密接に連携を取り退院支援を強化する必要があることなど多くのことを学んでもらいました。出向期間が短く出向者の終了を惜しむ声がたくさん聴かれましたが当初の目的は十分達成できたのではないかと思っています。

この研修事業を通して訪問看護のすばらしさが一人でも多くの方に伝わり、病院と在宅の顔の見える看護連携が一層深まっていくことに期待したいと思います。協力してくださった県の方をはじめ、病院、看護協会、コーディネーターの方に心よりお礼申し上げます。

看護連携をめざして



コーディネーターの立場から見た成果

島根県看護協会訪問看護ステーションアドバイザー 安田 和子

訪問看護出向研修でのコーディネーターの役割は、①病院と訪問看護ステーションのマッチング②出向条件の調整支援③出向期間中の状況確認・情報共有があります。

私は7月から出向条件の調整の一部と期間中の状況確認・情報共有に携わったので報告します。

コーディネーターが介在した1ヶ月毎の振返りの会の情報共有は、次の2点で大きな効果がありました。①出向者の報告内容に対して、出向元の看護管理者は病院の課題として真剣にとらえ意見交換しており、出向者の意欲は高まって行つた②出向者は学びを言語化することで課題が明確になった。

コーディネーターから見た成果は、出向者が訪問看護ステーションの職員として責任と自覚を持ち訪問看護を実践し、自分の病院を外から見る事で課題に気付くことが出来たことです。また、出向先においては、専門性の高い出向者との同行訪問・カンファレンス等の意見交換により訪問看護の質を高める事が出来たことです。

今後も訪問看護出向事業が継続でき、出向事業に参加した看護師が増えることで事業効果が高まり、地域住民それが望む在宅療養が実現することを期待します。

出向看護師としての取り組みから

平成30年11月1日から、株式会社花みずきナースステーションに出向しました。昨年、退院支援を行った患者の退院後訪問を行い、在宅での様子を知る機会がありました。その時から、在宅での生活を知ることが退院支援を行う上で必要だと感じ、今回の出向事業に参加希望しました。出向の目的は①病院から自宅退院した患者の生活を知る②訪問看護師の役割や業務を学ぶ③退院時に必要な患者の情報は何かを理解する④「住み慣れた地域でその人らしく生活する」ということを理解することです。

実際に訪問看護師の業務を経験し、訪問看護師の観察力や判断力の凄さを感じました。利用者の生活環境や生活習慣に応じて看護を行い、個別性のあるケアの展開も学びました。また、社会資源を活用しながら、多職種が連携して在宅生活を支えていることを実感しました。終末期の利用者との関わりを通して、在宅療養が可能な患者像についての視野が広がりました。

外部から病院を見る立場となり、病院側の課題として、退院後の生活のイメージ不足、退院後の地域との連携不足を感じました。

今後は病院の看護師が地域の多職種と協働し、地域に触れることで理解を深め、退院後の患者の生活を支えていきたいです。また、できないから在宅は難しいではなく、できるようにするために何をプラスすれば良いのかという視点で関わることを大切にしたいと思います。

出向元(病院)としての成果

松江赤十字病院 看護副部長 加納 さえ子

当院がモデル事業へ参加した目的は1.看護師の入退院支援、在宅療養支援能力の強化2.地域の訪問看護ステーションとの連携強化です。出向者は公募で人選しラーニングレベルⅢ以上等の要件をもつけました。最重視したのは、意欲・コミュニケーション能力です。

花みずき訪問看護ステーションとマッチングし、在籍出向の運びになりました。これは出向者が病院に在籍のまま、訪問看護ステーションと労働契約を結び勤務するというものです。出向条件の調整は、給与支払い・労働時間・休日・年次有給休暇・安全衛生確保の責任等々を協議し決定しました。契約実務(出向契約書作成・契約締結)は人事課に依頼し、出向先と11月から3ヶ月間の予定で開始しました。

この事業による効果は、本人の意欲と出向先のウエルカムな環境づくり、指導力の相乗効果により、訪問看護に必要な知識・技術・マインドを学べたことです。加えて多くの経験から、病院看護師とは異なる視点や広い視野で物事を捉えるようになり、当院の課題も言語化できていました。これにより訪問看護への理解が深まり、院内の活性化も期待できます。また、出向者の活動を通して、利用者や地域の医療・介護職への情報発信ができる等の効果がありました。県の担当者やコーディネーターの支援もあり、無事3ヶ月を終えました。今後もお互いを理解して看護連携により、地域で活躍する人材を育成し、地域包括ケアを支えていきたいと思います。

出向先(病院)としての成果

花みずきナースステーション 所長 高橋 京子

当ステーションでは、平成30年11月から平成31年1月まで、松江赤十字病院から看護師1名の出向を受け入れました。

当ステーションとしては、自宅療養を希望する人が訪問看護の利用による在宅療養という選択肢の存在を周知すべく、まずは基幹病院の看護師に訪問看護を体験してもらい、在宅療養の現場とその利用者について知ってほしいと考え、出向受け入れを決めました。

受け入れにあたっては、事前に内部で上記の目的を共有し、準備を整えました。その甲斐もあって、出向者は当ステーションの職員と自然に馴染むことができました。

明確な看護觀と旺盛な探求心を有する出向者は、日々利用者の生活に接しつつ、職員と協議したり地域の他職種と関係を築いたりしながら、医療と生活を支える在宅療養支援について学びを深めてきました。

このような出向者の姿勢には、利用者のみならず、関係機関からも予想を上回る関心が寄せられました。出向終了後には、出向元病院の看護師たちに今回の経験をフィードバックして、訪問看護への理解を広めてくれるものと期待しています。

一方、当ステーションも、出向者とのコミュニケーションを通して病院の看護の現状を理解し、退院支援や連携のあり方を見直すことができました。また、出向者の熱心さに刺激を受けて、職員の学習意欲や団結力が高まるという意外な効果もありました。

以上のように、今回の出向からは非常に高い成果を得ることができましたので、今後も機会があれば積極的に受け入れを検討したいと考えています。



平成30年度

看護管理者マネジメントスキルアップ交流会を開催しました

平成31年3月1日(金) ニューウェルシティ出雲 参加者60名

講演、勤務環境改善事例報告、ランチョンミーティング、DiNQL活用事例発表と充実した交流会となりました。



◆講演「ヘルシーワークプレイス(健康で安全な職場)を実現するために」

◆講師 日本看護協会 常任理事 熊谷雅美氏

◆看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくりのために、多様な人材を多様に活かす時代における管理者の役割について、「なぜ働き方改革が必要なのか」わかりやすく講演いただきました。

参加者の感想

勤務環境改善好事例報告

島根大学医学部附属病院
大田市立病院、出雲市民リハビリテーション病院

DiNQL活用事例発表

松江赤十字病院、松江市立病院、県立中央病院、
済生会江津総合病院



生き生きと話し合いを進めるランチョンでのGW

看護師等の届出サイト

とどけるん



届出制度について

～離職される看護職の皆様～

看護職等の届出サイトとどけるんへ届出をしましょう!!

離職時等の届出は努力義務です

どんな人が届け出るの?

- これから退職する方、現在の職場を離職される方、現在お仕事をされていない方
- ☆次の就業先が決まっていても、必ず届け出してください!!

届出方法は?

- スマートフォンかパソコンで看護師等の届出サイト「とどけるん」にアクセスし、必要事項を入力
- または届出はがきが届出用紙等の書面をナースセンターへ送る



届け出たらどんな支援がうけられるの?

- 届出登録完了のお知らせと「島根県ナースセンターのご案内」しおりを送ります。
- 研修案内、年4回発行される島根県看護協会情報誌あかね雲や求人情報を送ります。
- ライフスタイルに合った働き方、就業先と一緒に検討します。
- ☆「eナースセンターに登録を希望する」にチェックすると自動的に求職登録ができ求職に向けたサポートが受けられます。



離職される看護職の皆様、ナースセンターと繋がりを持ち、生涯看護職として活躍しましょう!!

移動ナースバンク

身近な場所で看護職の「働きたい」をサポートします!

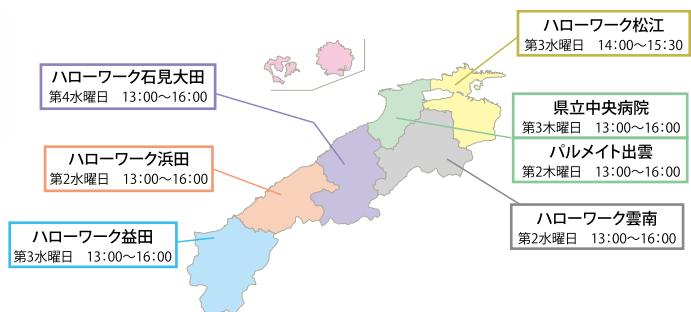
相談員はその地域の看護職

一人一人に寄り添い支援します

島根県ナースセンターでは県内のハローワーク等7カ所で看護職の就業相談を行っています。

お仕事探しや就業継続のご相談など、あなたらしい働き方を一緒に考えサポートします。

お近くの会場にお気軽にお越しください。



平成30年度訪問看護eラーニング活用の

訪問看護師養成講習会を修了しました

開催日:平成30年5月8日~12月4日



晴れやかな笑顔で21名の修了生集合!



レポートのまとめ方の講義は、わかりやすく今後にも役立つと好評でした。

寄り添える訪問看護師をめざし

出雲看護サービスセンター 宇原 千晶

 縁あって訪問看護の事業所に就職し早何年か経ちました。緊急時対応する中で、自分の不安を少しでも軽減し、自信をもって看護サービスを提供できる訪問看護師をめざし本養成講習会を受講しました。

学習となると再確認の意味も含め必死になり向かいました。時間の工面は大変でしたが、一緒に講習会に参加した周囲の仲間がいたからこそ楽しく参加できたと思います。

実習先では、普段の業務では訪問しないような地域を同行させてもらい、地域連携や本人・家族との関わり方にについて学び深い時間を頂きました。「住み慣れた地域でその人らしく暮らす」ために私ができる事はほんの些細な事かもしれません、焦らずあきらめず寄り添える訪問看護師を目指し今後も従事していきたいと思います。

講習会に参加するにあたり、講師の先生をはじめサポートして戴いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

更なる可能性を広げたい

訪問看護ステーションコミケア 原谷 直樹



私は5年間の病院勤務を経て、現在訪問看護師として働きもうすぐ1年が経とうとしています。これまでの経験から、その人らしく生きるために医療の場だけではなく、生活の場の可能性を感じ、訪問看護の道に進みました。

訪問看護は地域でその人らしさを支えていくため、様々な保険制度や地域資源などの知識が必要とされます。今回の講習会ではそういった知識を講義だけでなく、eラーニングを活用して現場で働きながら自分のペースで学んでいけるところが魅力的でした。また、日頃の看護や感じていることをレポートとしてまとめ、先生に添削していただくという貴重な経験もできました。そこで生活の場から得た自分や相手を思いやる共感的なコミュニケーション「NVC(非暴力コミュニケーション)」を用いた看護介入について振り返ることができました。

この講習会で学んだこと、感じたこと、そして関わった全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。

2019年度→ナースセンター研修計画

皆様のご参加をお待ちしています。

詳しくは島根県看護協会ホームページまたは教育計画をご覧ください。

訪問看護師養成講習会 (eラーニング活用)

受講料:会員19,000円、非協会員28,000円

【短期集合研修】

5月14日㊁、6月4日㊁、7月7日㊁、8月2日㊁、
9月6日㊁、9月17日㊁、12月19日㊁

*㊁は公開講座を開講しています。

【訪問看護実習】

県内訪問看護ステーションで10~11月に
3日間の実習。

※申込締切 4月16日(火)

再就業チャレンジ講習会

受講料:無料

出雲パルメイト会場

6月13日、10月10日 10~12時

松江看護研修センター会場

5月16日、7月17日、11月6日、

1月17日 10~16時

*新たに「急変時の対応」を加え、「医療・看護の動向」「フィジカルアセスメント」「最近の感染管理と看護の役割」など、プランクのある方にもわかりやすい内容です。無料託児もありますので、子育て中の方も気軽に申し込みください。

技術研修会

受講料:各6,480円

【静脈注射】

9月9日、10日

会場:県立大学出雲キャンパス

【フィジカルアセスメント】

2020年3月23日、24日

会場:島根県立大学出雲キャンパス

福祉職場

チャレンジ交流会

受講料:無料

10月頃開催予定



私、ゴルフ始めました！

公立邑智病院 柳川 宣子

ゴルフを始めたのは、友人からの誘いがきっかけでした。はじめはなかなかクラブにボールが当たらず、筋肉痛に悩まされました。主人の熱い指導のおかげで、少しずつボールが当たるようになりました。

ゴルフを始めて3年が過ぎました。予約を取ってゴルフ場に出かけ、主人と二人で休日を楽しんでいます。ゴルフの面白さと気持ちよさ、そして食事のおいしいこと！旅行を兼ねて遠くのゴルフ場まで行くこともあります。スコアはまだまだです

が、太陽の陽を浴びて運動するのはとても気持ちよく、気分がスッキリします。ときには、友人と出かけることもあります。これもまた私にとって楽しい時間となっています。

昨年は、ゴルフのおかげで仕事もプライベートも充実することができました。お金はかかりますが、出会いもあります。もっと練習して、主人を追い越すくらい上達したいと思います。皆さんもゴルフを始めてみませんか？



お知らせ

INFORMATION

看護協会・看護連盟合同研修会

日 時: 2019年4月13日(土) 13:00~16:30

会 場: 島根県看護研修センター

テマ: 看護における看護政策の重要性

講 師: 勝又浜子氏 日本看護協会 専務理事

「看護の日」記念の集い

日 時: 2019年5月11日(土) 12:00~15:30

会 場: くにびきメッセ国際会議場

内 容: 高校生からの看護エピソード発表他

特別講演: トーク&ライブ ミュージシャン 白築純氏

2019年度島根県看護協会通常総会

日 時: 2019年6月1日(土) 9:00~15:00

会 場: ビッグハート出雲

特別講演: 福井トシ子氏 日本看護協会 会長

第12回島根看護学術集会

日 時: 2019年7月13日(土) 9:30~15:00

会 場: ビッグハート出雲

メインテーマ: 「島根の看護のみらいー育ち・育てる力をはぐくむー」

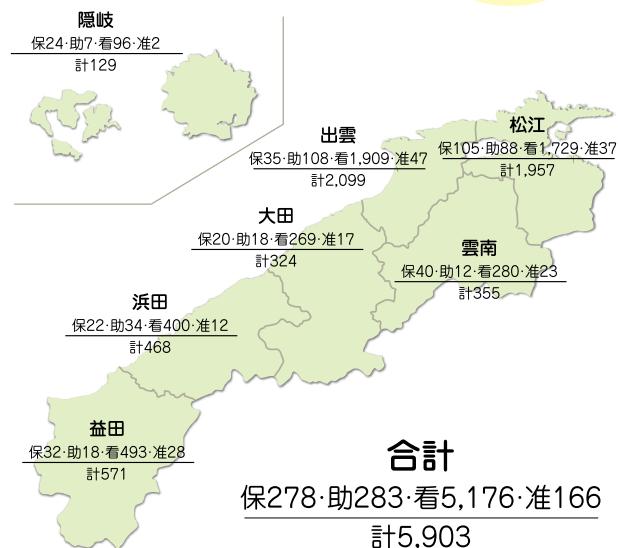
特別講演: 「臨床現場における教育担当者の育成
ーともに育つ組織をつくるー」

講 師: 松浦正子氏

(神戸大学医学部附属病院副院長 看護部長)

支部別・職能別会員数(合計)

(平成31年2月24日現在)



編 集 後 記

春光うららかな好季節を迎えました。来年度に向けていろいろ目標を考えている方も多いでしょう。目標達成のために頑張っていきましょう。季節の変わり目ですので体調に気をつけていきましょう。



【発行日】平成31年3月20日 【発行責任者】秦 美恵子 【編 集】公益社団法人島根県看護協会

〒690-0049 松江市袖師町7-11 TEL.0852-25-0330 FAX.0852-25-3157

<https://www.shimane-kango.or.jp> E-mail:shimakk@carrot.ocn.ne.jp

